



### ▼ Contents

- 1 ボランティア活動報告
- 2 佐野常民～日本初の国際人道支援～

## 1 ボランティア活動報告



ボランティア活動部を中心に地域のボランティア活動に精力的に参加しています。今後も、地域社会へ参画することによって、見識を広め、生きる力を高めていきます。



## 2 佐野常民～日本初の国際人道支援～<sup>1</sup>

1877（明治10）年西南戦争の最中、日本初の国際人道支援団体である**博愛社（後の日本赤十字社）**が設立されます。発起人は旧肥前佐賀藩出身で明治政府に務める**佐野常民（さのつねたみ）**です。

佐野は、10年前に訪れた**パリ万国博覧会**で、ヨーロッパ発祥の**赤十字**の展示に出会いました。赤十字は、**戦場で傷ついた者を敵味方の区別なく助け、治療する人道的支援**を掲げていました。



佐賀県赤十字血液センター前の佐野常民像  
「さかの歴史・文化お宝帳」ホームページより

西南戦争では、明治政府軍兵士や、反乱を起こした西郷隆盛ら薩摩軍兵士は、十分な手当を受けられず戦場にうち捨てられていました。

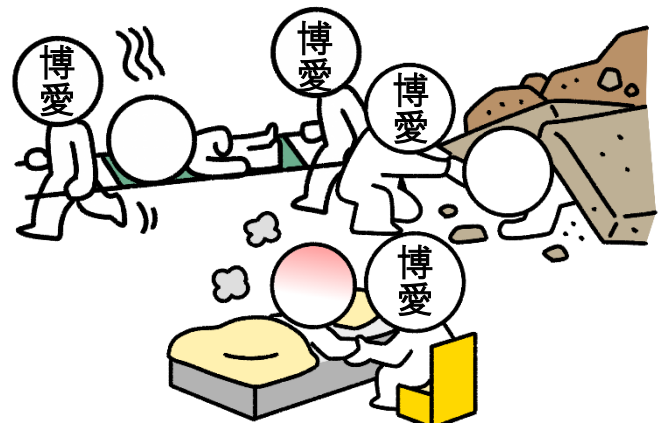
救護のために戦場へ向かった佐野ら博愛社の人々は大きな苦難に直面します。敵味方の区別なく人々を救う活動は立派な活動に思えますが、**当時の日本人からは理解されませんでした**。政府軍からは、「**なぜ敵を助けるのか！**」と激怒され、薩摩軍からは、政府軍の一員と見なされ社員が殺されてしまいました。



十分な救護もできず失意のまま東京へ戻った佐野ですが、活動を終了させませんでした。

佐野が考えたのは、**平時の活動の充実化**です。国際赤十字への加盟や、日本赤十字社が運営する**病院**や**看護婦養成所**を設立し人材育成に努めました。1891（明治24）年に発生した**濃尾（のうび）大地震**に**看護婦を派遣し救助**に当たらせました。

緊急時を想定し人材育成を行った日本赤十字社は政府や国民から徐々に支持を得ていきました。



1894（明治27）**日清戦争**では、日本赤十字社は戦地へ医師や男性看護師を派遣し、日本兵だけでなく、敵国である清国兵をも救助しました。

日本赤十字社の**献身的救護に感謝する清国兵**や、戦地に訪れていた**欧米各国の使節団から賞賛**を受けました。

その後も、日本赤十字社は活動を続けました。特に、自然災害救助においては高い技術をもって救助に当たり、国内外から大きく頼りにされました。

現在に至るまで**災害救助は日本の得意分野**と言えるでしょう。



<sup>1</sup> NHK取材班編『NHK その時歴史が動いたコミック版 幕末奔流編』2008年集英社を参考に執筆